

資材部会50周年記念

座談会

資材部会のこれまでの運営と活性化に、特に御尽力をいただいたOBの方々をゲストとしてお招きして、座談会を開催しました。資材部会の設立時の話から、これからの資材部会に期待すること等、様々なお話を伺うことができました。



福西 紀雄 氏

車体工業会 元理事
資材部会 元部会長

天龍ホールディングス(株) 代表取締役社長



羽深 隆 氏

車体工業会 元理事
資材部会 元副部会長

(株)羽深製作所 元常務取締役



佐藤 和夫 氏

資材部会 内装分科会
元副分科会長

ロンシール工業(株) 元理事 産業資材事業部長

小澤委員長：50年史編集委員会委員長の小澤と申します。本日は業務ご多忙の中、50周年記念座談会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。資材部会は本年部会設立50周年を迎えることができました。これもひとえに会員の皆様はもちろんですが、特にこれまで部会を運営いただいてこられた方々のお力によるものがとても大きいと思います。

本日は、資材部会のこれまでの運営と活性化に特に御尽力をいただいてこられた元役員の方々にお集まりいただきました。皆様の資材部会におけるこれまでの活動として、印象に残った思い出も含めて、ご尽力いただいた内容をお話しいただき、今後の部会運営に役立て、さらなる活性化をめざしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

吉川 徳雄
資材部会 部会長

天龍工業(株)
代表取締役社長

吉川部会長：本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。10名に満たない人数で始まった資材部会ですが、ここにお集まりいただいたOBの皆様をはじめとした諸先輩方のご尽力のおかげで、50周年を迎える現在では100名近いメンバーを擁する部会へと成長いたしました。

そして、次の若い世代へ引き継いでいくことを踏まえこれからの50年の活性化への大きなヒントを得る上でも、皆様から様々なご意見をお聞かせ願えればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

小澤委員長：では座談会を始めさせていただきたいと思えます。まず事務局から2015年度資材部会事業経過報告の概要を説明していただきます。

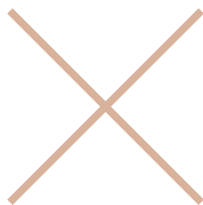


小澤 賢記 編集委員長

ゴールドキング(株)
代表取締役社長

GUEST
MEMBERS

- 福西 紀雄 氏
- 羽深 隆 氏
- 佐藤 和夫 氏
- 西 桂二郎 氏
- 泉 龍彦 氏

EDIT
MEMBERS

- 吉川 徳雄 資材部会 部会長
- 小澤 賢記 編集委員長
- 久保 航一 編集委員
- 加藤 三省 編集委員
- 日高 卓 編集委員
- 吉田 量年 車体工業会 専務理事
- 信澤 幸男 資材部会 事務局



西 桂二郎 氏

資材部会 部会検討(活性化)委員会
元委員長

日本板硝子(株) 元執行役員



泉 龍彦 氏

車体工業会 元理事

資材部会 元部会長

クラリオン(株) 代表取締役会長兼CEO

Round Table
Discussion

事務局：（事業報告の説明：略）

小澤委員長：ありがとうございました。それでは、お手元の資料をご覧くださいながら、皆様の当時のお話をいただきたいと思います。

福西様、羽深様は資材部会設立当時より、部会運営に携わってこられたとお聞きしています。その辺のお話も含めてお願いいたします。それでは福西様、羽深様お願いします。

資材部会の設立

福西氏：はじめに、なぜ車体工業会を知ったのかというと、当時いすゞさんの紹介によるものでした。車体工業会には正会員で構成される特種部会やバス部会等はありましたが、部品を扱う私たちは準会員であり、部会に参加することはできませんでした。

しかし、正会員企業から資材への品質向上要求が強くなっていく中で、準会員で作る資材の部会を作ろう



という流れになり、資材部会を作ることになりました。

とはいえ、当時は10人にも満たないメンバーでした。どうすれば会員を増やせるかを考えることが最初の仕事でした。正会員とは異なり、全くの異業種同士が集まるというのは難しいものです。事務局の方々と協力しながら、一人ひとりの人間関係を大切に培ってきたことこそが、会員を増やすことに繋がり、こうして50周年を迎えることができた原動力となったのではないのでしょうか。

現在でも正会員との接点は充分だとはいえません。資材部会は、大小様々な日本の優秀な企業が参加している部会です。これからももっと積極的にお互いの繋がりを強固なものとし、ものづくりの発信力・発言力を高めていくことを期待しています。

小澤委員長：ありがとうございました。続きまして、羽深様お願いします。

羽深氏：戦後物資が不足した時代に行われた部品統制の中で、資材を分配する役割を担う複数の団体が組織されました。その後、昭和30年代に入り競争や淘汰

50周年記念座談会



を経て、収斂されていったと思います。

ちょうどその頃はメーカーからの値下げ要求が強くなってきた時代で、現在のよう

に協力関係とはいえ、対立する立場でありました。準会員である資材部会が正会員企業に対して、値下げ要求に交渉できるように組織ができてきた時代ともいえます。

攻防の時代

久保委員：当時の部会活動は、バス部会との連携が中心だったのでしょうか？

羽深氏：今でこそ、お互いに連携が来ていますが、以前は同じ車体工業会の中でも、発注側のボデーメーカーと、供給側の資材メーカーではコストダウンを巡って激しい攻防を続けていた関係でもありました。

福西氏：そうですね。厳しい値下げ要求には部会全体の意見として、正会員へ値下げに反対の要請書を提出した経緯もあります。

佐藤氏：お互いに分かりあうようになれたのは、バス部会の懇親会や視察旅行等に同行するようになって、人間関係を築くことができてからではないでしょうか。

羽深氏：お互いに理解し合えることができてこそ、言いたいことがいえる。当時の資材部会役員には、ボデーメーカーの購買担当者との価格交渉で激しく渡り合えるつわものが揃っていました（笑）。



久保 航一 編集委員
(株)昭和 代表取締役社長

活性化に向けて

小澤委員長：やはりご苦心されたのは、部会の活性化のためには何をしたらよいかだったと思いますが。

加藤委員：平成8年（1996年）に福西様が部会長に就任されてまもなく「ビジネスネットワーク」を立ち上げ、組織を一新されました。その時はどのような背景があったのでしょうか。

福西氏：様々な苦勞を共有した役員間同士の交流は広がっていき、会員の数も増えてきました。しかし、会員間の交流や相互理解はまだまだという状態であり、会員間のコミュニケーションの活発化を図る必要がありました。そのために「資材部会検討（活性化）委員会」を組織しました。

小澤委員長：「資材部会検討（活性化）委員会」の活動には、かなり御苦勞があったとお聞きしています。その結果、資材部会の組織（ビジネスネットワーク）と運営方法が変わり、現在に至っています。

活性化委員会での当時の活動内容についてお話しをいただけますか。



西氏：私はなぜ自分が委員長となったのかあまり覚えておりません（笑）。当初は業種が異なる集まりだけにバラバラな会という印象を

持ちました。そこで資材部会の活性化委員長として、それまで全く交流がない業種の間人同士が知り合うことを目的に、会合や工場見学会への参加を各会員に積極的に促しました。単純なことですが、実際にその後の各種活動は活発になりました。

人を集めて部会としての意見をまとめることは、対外的な発言力をつける上でも大切なことだと思います。

（*25ページから当時の参考資料を掲載）

VOICE

日高委員：活性化ということでは、機関紙で部会会員

日高 卓 編集委員

クラリオン(株)
マーケティング&セールス本部
国内OEM営業部 担当部長



会社を紹介する「VOICE」も寄与していると思いますが、どのようなものなのでしょうか。

事務局：現在までに累計約60社近くの部会会員会社の紹介をさせていただきました。取材した会員会社にも、読者の方々にも好評をいただいております。

吉川部会長：「VOICE」については加藤委員から詳しくお話をお願いします。

加藤委員：「VOICE」は資材部会の活性化の一環として始まりました。立ち上がりはビジネスネットワークが創設された時期とほぼ同じ時期だったのではないかと記憶しています。

**加藤 三省 編集委員**

スリーエム ジャパン(株)
コマーシャルグラフィックス技術部
担当マネージャー

当時の資材部会と本部の編集委員会も担当されていた岩崎専務理事が資材部会の存在を正会員である架装メーカーに、よりアピールした方が良いのではないかと提案に基づき立ち上げました。

当初は、資材部会会員の広告のような内容でしたが、もっとインパクトのある内容にした方がよいとの意向で、様々な企画に取り組みました。現在は、各社の製品やシステムの開発秘話を中心とした読み物的なものに仕上げています。

異業種の集まり

小澤委員長：泉様は資材部会活性化委員会の答申に基づき、ビジネスネットワークの組織が一新されてから、最初の部会長として就任されました。その時の状況はいかがなものだったのでしょうか。また、その後部会長として大いに活躍していただきました。その時の状況や思い出に残った活動、行事などがございましたら、お話いただけますか。



泉氏：就任当初は、車体工業会やJABIA規格についてまったく知識がありませんでした（笑）。

しかし、大小様々な分野の資材メーカーの方々が集まっているという点が大変面白く感じました。また会員の皆さんとともにヨーロッパや中国への視察に参加したことは見識を深める上でも大変役に立ちました。

それぞれの業界での仕事の進め方や、物事に対しての捉え方・考え方を理解する機会は、一つの業界にいるだけでは決して得られないことでしょう。

この「異業種が集まることができる」というのが、資材部会の強味ではないでしょうか。



50周年記念座談会

JABIA規格の制定

小澤委員長：次に他部会との連携はいかがでしたでしょうか。

福西氏：資材部会に入会する目的は、やはりビジネスにつなげることが第一ですから、色々な仕掛けが必要でした。その代表が「規格化」です。難燃性や床材の防滑性などありますが、特に佐藤さんが企画・作成されました「床材の防滑性」のJABIA規格は非常に有効なものでした。

佐藤氏：ボデーメーカーの方からも資材メーカーはもっと強くならなければならないという意見を伺いました。それには部会としての活動をもっと行うことが重要だということです。資材部会の会員企業が作る製品の規格の制定には、私たちが積極的に関与していくことになりました。



福西氏：佐藤さんが、ボデーメーカーに対して我々に規格を作らせると乗り込んでいきましたね（笑）。

佐藤氏：相当な反発を受けました（笑）。しかしこちらにも、ボデーメーカー（正会員）の技術委員会を納得させる規格を作るのに必死でした。

内装分科会を月に何度も開催したり、技術研修や見学へ行ったりしました。そして資材部会の一番最初のJABIA規格として「防滑性」の規格を作ったのです。



羽深氏：言われた製品をただ作るだけではなく、技術分野で協力しながら、専門分野でのイニシアチブを取することは、とても重要なことです。これは、今後もっと続けていかないといけない。

吉川部会長：そうです。ECE規格の時もっと積極的に行うべきでした。

事務局：「JABIA規格」となった防滑性はその後、2005年のノンステップバスの基準にも採用となっています。

部会への期待

小澤委員長：まだまだお聞きしたいことが山ほどありますが、予定した時間が迫ってまいりましたので、ここからはOB皆様方から資材部会に対する期待やアドバイスをお願いしたいと思います。

福西氏：グローバル社会となって久しいですが、日本の優秀なものづくりの原点を支えるために、事務局が中心となって、資材部会と正会員がもっとジョイントできるような活動をこれからも推進してください。

羽深氏：CO₂の排出等で環境に対して、常に厳しい視線を受けている自動車産業ですが、電気自動車をはじめとした新エネルギー時代を迎えることで、まだまだ伸びていく業界であるのは間違いありません。この新しい時代への適応力を会員企業がつけていくための様々な情報発信に期待します。

泉氏：羽深さんがおっしゃるように時代はどんどん変化しています。資材部会も国内だけということではなく、海外にも目を向ける必要もあるでしょう。会員各社が、次に何が起きるのかを考え、想像して、顧客に提案できるようなサポートが重要だと思います。

西氏：資材部会という様々な企業が集まる“場”を十分に活用することが大切だという認識を持つことが必要です。様々な活動を通して、会員企業が同じ認識を持

ち、資材部会という“立場”となることで難題を乗り越えることもできるでしょう。

佐藤氏：資材部会の各分科会の活動が自分たちの仕事にプラスになるという認識をもっと広めなければいけません。会員各社がもっと積極的に活動に参加することで、全体としての力が向上するだけでなく、個々の会社にとっても必ずプラスになっていきます。下請けで終わらないためには、手を組んで話をしていくような体制づくりを目指してください。

小澤委員長：皆様のお話をお伺いして、資材部会を支えてきた自負心、またものづくりに対するDNAを感じさせていただきました。

本日はご多忙の中ご出席いただき、大変ありがとうございました。今後も資材部会活性化のためのご指導、ご鞭撻をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

それでは最後に吉田専務理事よりお礼のご挨拶をお願いします。

吉田専務理事：本日はお忙しい中、資材部会の座談会にご出席いただき誠にありがとうございました。

皆様方のいろいろなお話をお伺いして、資材部会が単に依頼された資材や部品を供給するだけでなく、ボデーメーカーと共に考えて、より良いものづくりを行い、お互いに発展していこうという意気込みを持って

吉田 量年 専務理事
車体工業会



活動を続けられておられることを、あらためて実感させていただきました。

様々な架装をつくり上げていく中で、資材の提供のみならず皆様の持つ知恵を提供していただくことによって、より使いやすく、耐久性が高く、信頼できる製品をエンドユーザーに提供することができると思います。

準会員である資材部会の皆様方が、今まで以上に積極的に活動を行い、活性化に取り組んでいかれることが、正会員の活動にも良い刺激を与え、車体工業会全体の活性化につながっていきます。

グローバル化が拡大し、TPPもこれから本格活用の時代を迎えます。今後の環境変化の中でも、お互いに切磋琢磨しながら、連携を更に強化し、業界の発展とともに知恵と力を発揮していただくことを期待申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

